



arcserve®

20年以上の実績を持つ、多様なビジネスシーンで活用できるバックアップのデファクト・スタンダード

Arcserve® Backup

バックアップの信頼性と高パフォーマンスを追求される方へ



バックアップを
短時間で終わらせたい



アプリケーション特有のデータも
止めずに保護したい



混在するWindows、Linux、UNIXも
まとめてバックアップしたい



NEW

Windows Server 2022 対応

データ保護に求められる高信頼性とパフォーマンスを。

Arcserve Backup は、ビジネスシーンで生み出される多様なデータを、確実かつ最新な形で保護できるバックアップ・リカバリソリューションであり、ベース製品にオプションとエージェントを組み合わせることで、あらゆる規模のお客様環境に対応します。

ベース製品	オプション製品	エージェント製品
バックアップ・リカバリを行う本体製品です。	特定用途向け機能を強化する製品です。	特定アプリケーションや仮想環境に最適化する製品です。

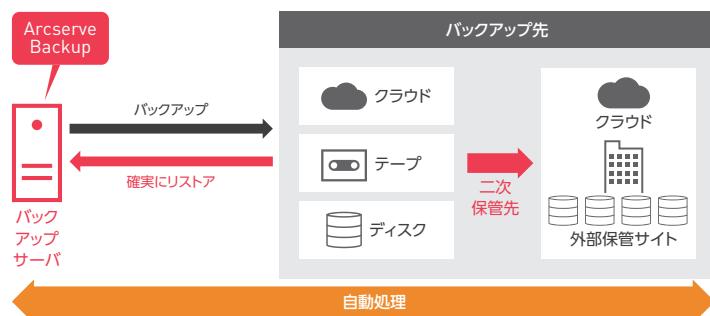
ベース製品

Arcserve Backup for Windows

Arcserve Backup は、使いやすい日本語ユーザインターフェイスを備え、ディスク、テープ、クラウドへのバックアップはもちろん、バックアップデータのサイズを大幅に削減する重複排除機能や、法令遵守に活用できる監査証跡の保管機能など、多様なバックアップ / リストア機能を標準搭載したソフトウェアです。

多様なバックアップ方法と確実なリカバリを実現

Arcserve Backup はバックアップ先を選びません。安価で汎用性の高い「ディスク」、可搬性と長期保管に優れる「テープ」、災害対策先として安価な「クラウド」を選択できます。二次保管先には、外部保管サイトのほか、初期コストを抑えることができる「クラウド」に対応しています。企業やデータによって異なるバックアップ要件に併せて、あらゆるシーンのデータ保護をご活用いただけます。また、データの復旧時も、最適なリストアソースを自動選択する「スマートリストア」などによって、簡単かつ確実に復旧できます。

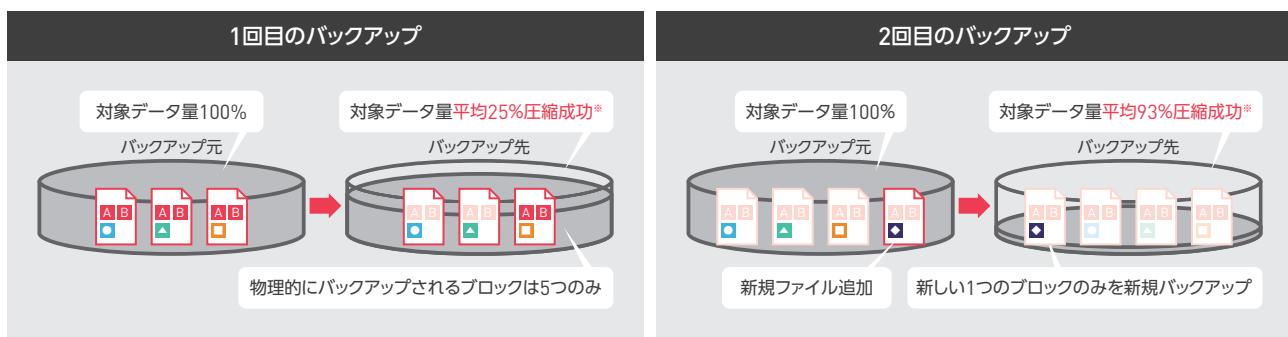


テープ、ディスク、クラウド、アーカイブなど多彩な保管方法に対応

基本的なバックアップのD2D(Disk to Disk)やD2T(Disk to Tape)、D2D2T(Disk to Disk to Tape:ステージング)やD2D2C(Disk to Disk to Cloud:ステージング)はもちろん、D2C(Disk to Cloud)といった高度なバックアップ機能を備えています。ディスクの持つパフォーマンスとテープの持つ耐久性、クラウドの利便性を使い分けることができ、より堅牢なバックアップ体制を実現します。長期保管が必要なデータも、アーカイブ機能で安価な記録装置や書き換え不可の媒体にデータを移して保管できます。これらの機能によって、ストレージ効率を高め、コスト削減を実現します。

ディスクを無駄なく活用できる「データ重複排除」機能を搭載

増え続けるデータを効率的にバックアップするのが「データ重複排除(データデュプリケーション)」機能です。データの重複をファイル単位ではなく、小さなブロック単位で排除することで、無駄なく効率的なバックアップ/リカバリが可能になります。バックアップデータの容量を大きく削減できるため、必要なストレージ容量も大幅に抑えることができます。「データ重複排除」機能は標準で利用でき、全エージェント製品との併用をサポートしています。

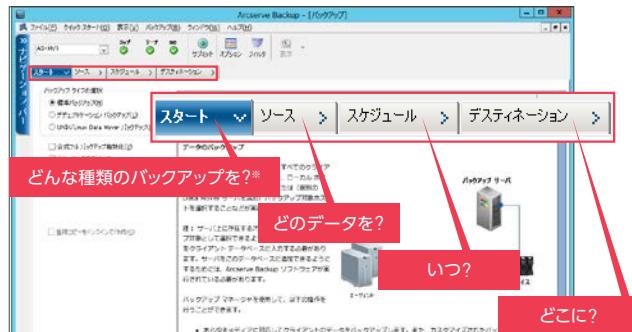


※Arcserve調べ

操作の簡単さとわかりやすさを追求、保管データは安全に保護

▶ ウィザード形式で簡単設定

インストールはもちろん、バックアップやリストアの設定も、ウィザード形式（対話形式）で設定可能です。さらに、付属の日本語チュートリアル機能でバックアップ/リストアをすぐに操作できます。



※ [スタート] でステージングを選択すると、ステージングの場所とマイグレーション ポリシー タブが追加されます

視覚化されたわかりやすい画面で管理

▶ SRMレポート付きダッシュボードの搭載

バックアップ／リカバリの状況を“ひとめ”で確認できる「Storage Resource Management (SRM) レポート付きダッシュボード」機能が備わっています。バックアップジョブごとのステータスや、デバイスの利用状況などを一元的に確認できます。グラフィカルなチャートで、問題の早期発見と効率的な管理を実現します。

▶ 環境全体を視覚的に把握

バックアップ環境が広がるにつれ、全体の把握が困難になります。その点、Arcserve Backupには、Arcserve Backupを導入したサーバやストレージ、デバイスを階層形式で視覚化できる「Infrastructure Visualization」機能が備わっています。全体像の把握とともに、ドリルダウンして各サーバごとの詳細情報にアクセスすることも可能です。

日々の運用負荷を軽減する高速バックアップ

▶ マルチプレキシング機能

複数ソースにあるデータを1台のテープドライブに同時にバックアップし、テープドライブの性能を最大限に引き出す「マルチプレキシング」機能を備えています。特に、テープドライブが高速な場合に高いパフォーマンスを発揮します。

Arcserveシリーズ製品と連携して さらに堅牢な体制を構築可能

Arcserve Backup の管理画面から、Arcserve® Replication によってレプリケーションされたデータをバックアップできます。同様に Arcserve® Unified Data Protection (UDP) でイメージバックアップされたデータを、Arcserve Backup でテープにバックアップできます。これにより、バックアップ管理者の負荷を大きく軽減できるとともに、非常に高度で堅牢なバックアップ体制を簡単に構築できます。

Arcserve Backupから直接行える操作

Arcserve Replicationの複製データをバックアップ／リカバリ

Arcserve UDPのバックアップデータをテープ装置などにバックアップ

▶ 使いやすい管理画面

完全な日本語化はもちろん、徹底して簡単さにこだわった、直感的で利用しやすい管理画面を備えています。各種情報の一元管理により、管理者の運用負荷を大きく軽減できます。

▶ 暗号化対策

バックアップサーバ、エージェントの双方で暗号化が可能なうえ、テープ装置機能のハードウェア暗号化にも本体製品で対応しています。アルゴリズムにはFIPS (米国連邦標準規格)認定の高い安全性を誇る「AES」を採用しています。

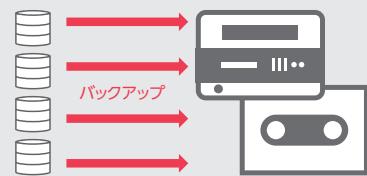
▶ アクセスコントロール／監査ログ

バックアップ／リストアの管理機能を細かく分け、各担当者の業務に応じて、必要な権限を柔軟に割り振ることが可能です。データの漏えいや悪用、改ざんといった不正利用を防ぎ、企業内の内部統制を支援します。また監査証跡の一環として、各担当者が行った操作内容を監査ログに記録できます。

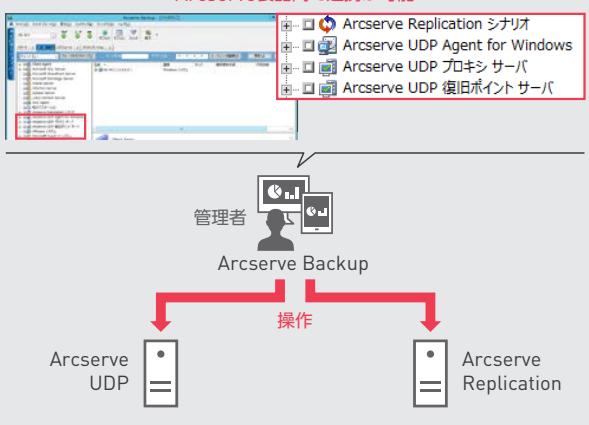


マルチプレキシング 利用

複数のデータを1つのテープ
ドライブに送るため、データ転
送を最適化し、遅延なく転送
するので、止まりにくい



Arcserve製品間で連携が可能



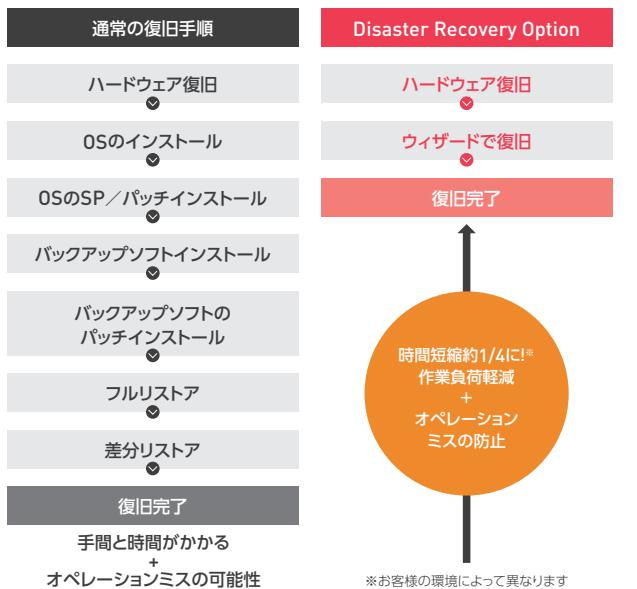
オプション製品



Disaster Recovery Option

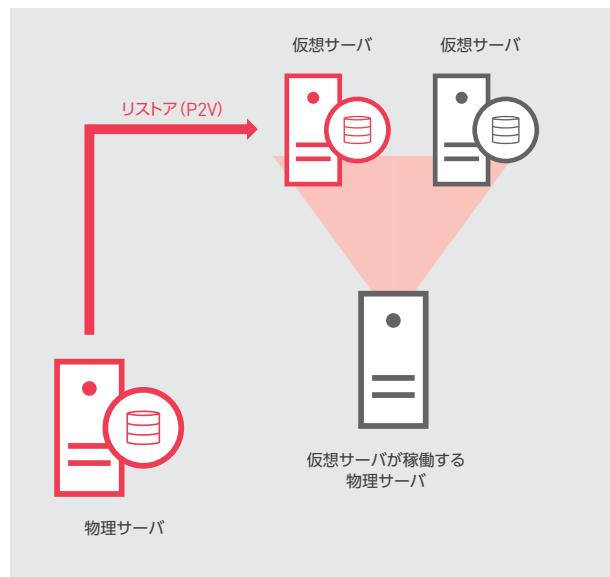
「手間なく」「即座に」戻せる

OS やアプリケーションを再インストールすることなく、システムを迅速、かつ計画的に復旧できます。復旧処理中にネットワーク上のノードから対象マシンの固有データ(パーティション情報など)を取得できるため、最小限の用意でサーバを復旧できます。



物理環境を仮想環境へ簡単復旧(P2V)

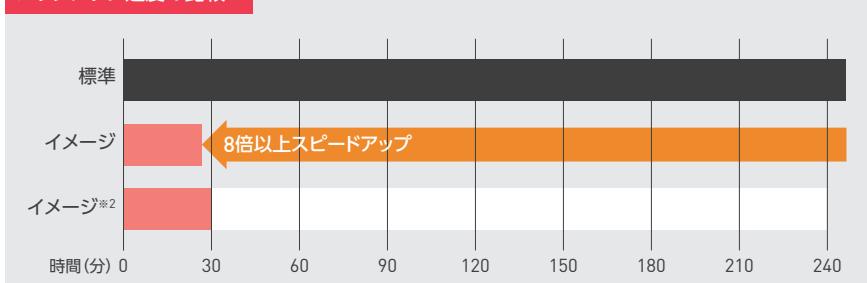
Disaster Recovery Optionでは、物理環境のバックアップデータを用いて、仮想環境に復旧できます。P2Vは、物理環境で古いバージョンOSを搭載できない場合や、仮想化システムの採用で物理環境のシステムを仮想マシンに移行する場合など、様々なケースで利用できます。



Enterprise Module

Enterprise Moduleは、標準機能をさらに強化し、大規模環境などに求められる高度なバックアップ機能を提供します。例えば「イメージオプション」機能を使用すると、ドライブのスナップショットイメージを作成し、ディスクからデータブロックを読み取りバックアップを行います。ドライブ全体を1つの大きなファイルとみなすため、ファイルごとのオーバーヘッド(ファイルのオープン／リード／クローズ)を省くこととなり、処理時間を大幅に短縮できます。

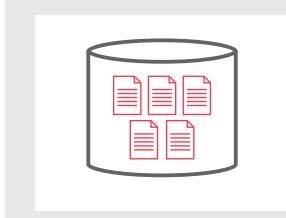
バックアップ速度の比較*



- マルチストリーミング機能のサポート
- ステージングストリーム数の拡張
- raw/バックアップ
- メディア管理機能(MMO)
- NDMP NASの動的デバイス共有*

*NDMP NAS OptionとSAN Optionも必要です。

イメージオプション



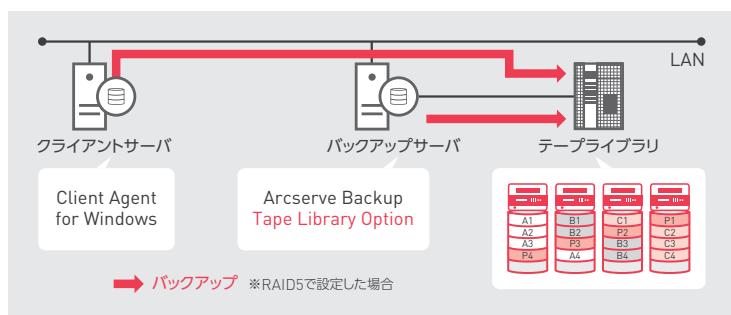
通常のバックアップではこま切れのデータを集約

オープンとクローズのオーバーヘッドが激減

➡ オープン ⚡ 読み出し ➡ クローズ

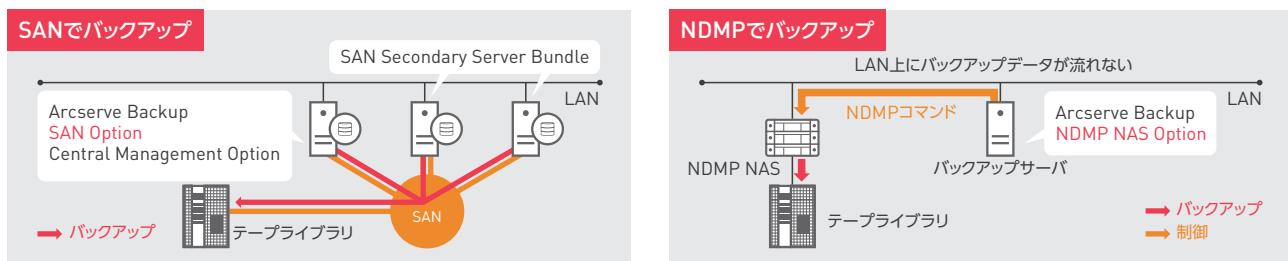
Tape Library Option

Tape Library Optionは、2つ以上のドライブを搭載するテープライブラリ装置をサポートします（ドライブが1つのライブラリ装置の場合には、本体標準機能でサポートします）。また、Tape Library OptionにはRAID機能も搭載されています。この機能を利用することで、バックアップテープの正副を作成するミラーリングを可能とし、さらに複数デバイスを同時に利用して性能と容量を向上させる「ストライピング」で、飛躍的にバックアップ速度を向上させることができます。



SAN Option^{*} / SAN Secondary Server Bundle / NDMP NAS Option

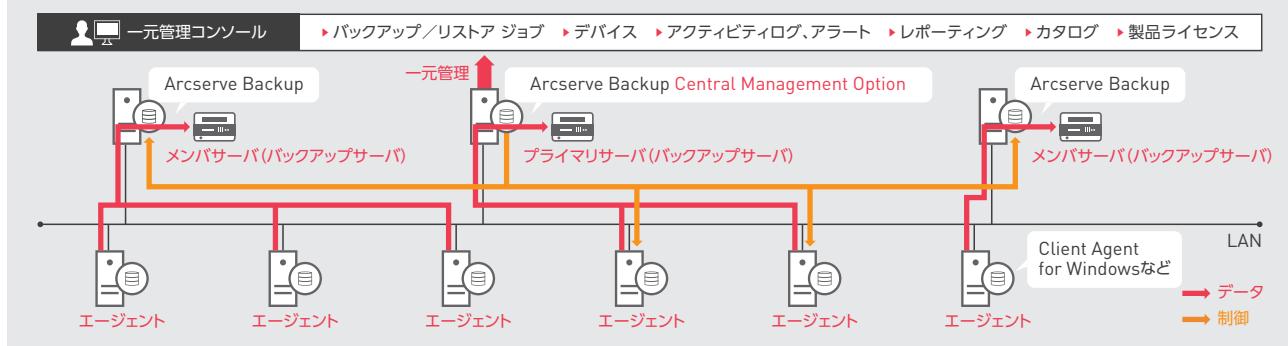
SAN Optionは、SAN環境上のテープ装置を複数のバックアップサーバで共有できます。それぞれのバックアップサーバから直接、テープ装置にバックアップデータを送り出せるため、LANに負荷を与えない、LANフリーバックアップを実現できます。SAN Secondary Server Bundleは、2台目以降のバックアップサーバに導入する製品で、ベース製品とSAN Optionをバンドルしています。NDMP NAS Optionは、NDMPコマンドを使用して、NASのスナップショットをバックアップします。バックアップ先はNAS接続のテープ装置や、バックアップサーバに接続されたテープ装置／ディスク装置などを選択できます。NASに繋がっているテープ装置を利用すると、データが直接テープ装置に送り出されるため、ネットワークに負荷がかかりません。



Central Management Option / Global Dashboard

Central Management Optionは、拠点内に点在するバックアップサーバや、バックアップ対象サーバを一元的に管理します。この製品は、バックアップ対象サーバを「エージェント」、バックアップを行うサーバを「メンバサーバ」、すべてを管理する「プライマリサーバ」という3レイヤに分けます。プライマリサーバにすべての情報が集まるため、管理者はどのバックアップサーバかを意識することなく、バックアップやリストアの操作や、ステータスの確認、レポート出力などを行えます。さらにGlobal Dashboardを利用すると、複数拠点に存在するバックアップサーバのダッシュボードを本社で一元管理し、全拠点の稼働状況の把握や、問題発見を早期に行えます。

Central Management Option の利用イメージ

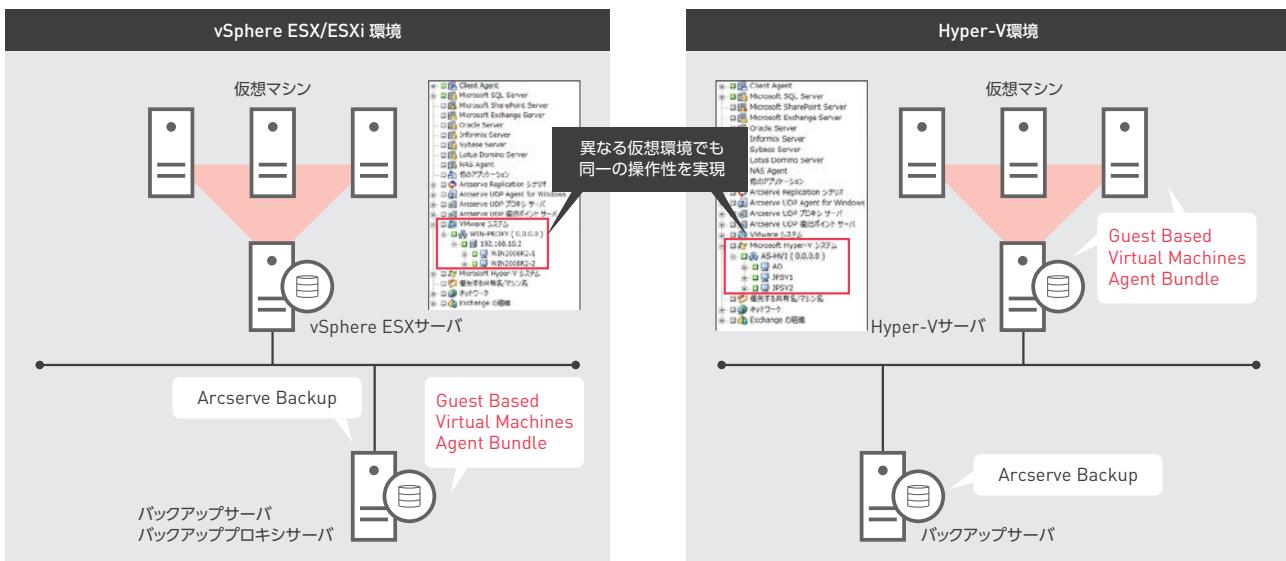


Guest Based Virtual Machines Agent Bundle / VM Agent per Host License

仮想環境を効率的に保護する専用エージェントです。仮想環境を手軽に、高速に、かつ確実にバックアップできます。ファイルモードとrawモード、そして混在モードでの柔軟なバックアップ/リストアに対応しています。また、仮想マシンにエージェント導入が必要な場合、ソフトウェア展開用のデプロイメントツールを利用することで、エージェント配布を簡単に行えます。

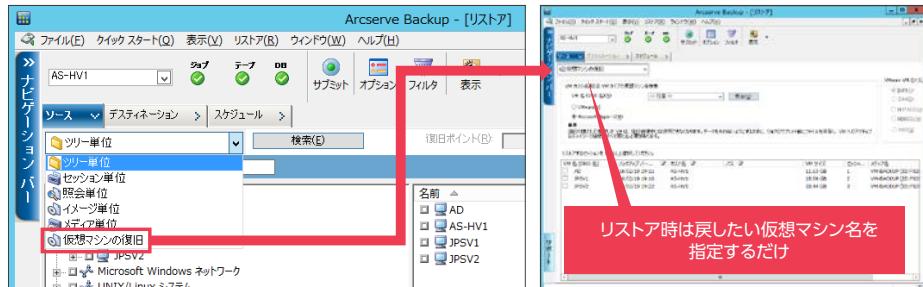
物理環境でも仮想環境でも同じ操作性

物理サーバでも仮想サーバでもまったく同じ操作性で一元管理できます。物理環境での運用に慣れていれば、仮想環境での運用で特別なスキル習得を必要としません。増え続ける仮想環境に対して、管理者の負荷を大きく軽減します。また、vSphere ESX、Hyper-Vの異なる仮想ソフトでも同じ操作性を実現しています。



仮想環境もたった 数クリックで簡単リストア

仮想マシンの丸ごとリカバリは、物理環境のOS復旧よりも簡単なステップで復旧できます。またファイル単位のリストアでは物理環境と同じく、元の場所だけでなく、異なる場所にも戻せます。



Client Agent for Windows / Linux / UNIX

様々なプラットフォームのリモートバックアップに対応

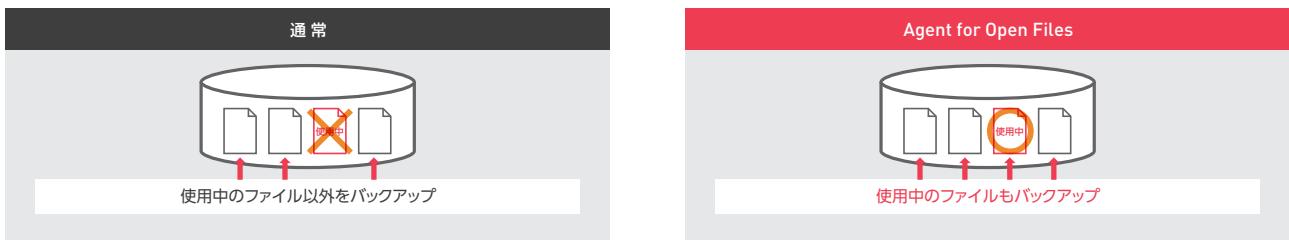
Windows/Linux/UNIXなど各プラットフォームのファイルシステムをネットワーク経由でバックアップ/リストアするための製品です。バックアップ作業をArcserve Backupのサーバ側とクライアント側のコンピュータで分担します。通信の負荷を軽減しつつ、高いパフォーマンスを発揮できます。さらに暗号化機能を搭載し、セキュアなバックアップ/リストア環境を構築できます。

- ▶ ネットワーク上にある異種システム(Windows/Linux/UNIX)混在環境のファイルをバックアップ
- ▶ データ圧縮機能により通信負荷を軽減
- ▶ ファイルのセキュリティと属性を維持
- ▶ セキュリティを確保するFIPS認定AES256ビット暗号化

Agent for Open Files

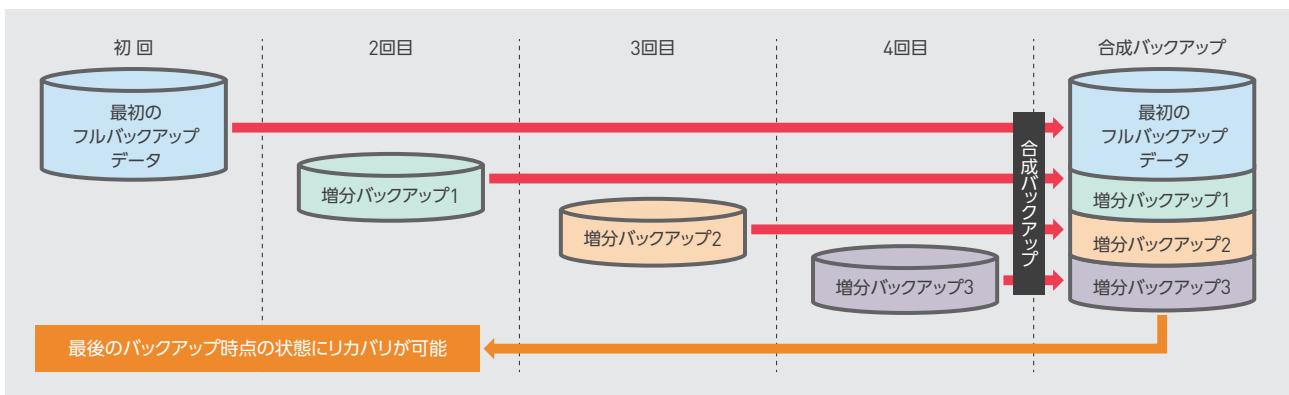
使用中のファイルもバックアップ対象にできるオープンファイル機能

使用中のファイルがバックアップの対象となった場合、バックアップ処理では該当のファイルがスキップされ、未完了になります。24時間365日稼働する環境では、夜間でもファイルへのアクセスがあり、完全なバックアップを行えないケースがあります。Agent for OpenFilesでは、OSやアプリケーションのシステムファイル、ドキュメントやスプレッドシートなどのビジネスデータ、画像データなどの各種ファイルが使用中でも、安全かつ確実にバックアップできます。



合成フルバックアップ機能でバックアップ時間を大幅短縮

合成フルバックアップは、処理時間の膨張を解決する機能です。フルバックアップと同じイメージとなる、バックアップデータの合成ファイルを作り出します。例えば週末にフルバックアップを取得している環境で、週に1回の合成スケジュールを設定すると、最初にフルバックアップを行い、その後は増分バックアップを繰り返します。従来のフルバックアップ実施日である週末も増分バックアップを実行し、その後で最初のフルバックアップデータ(2回目以降は前回の合成データ)と、その週に行なったすべての増分バックアップデータを使って、合成データを作成します。フルバックアップの代わりに増分バックアップを実行するため、バックアップ時間を大幅に短縮できます。またスケジュール設定では、月末だけ従来型と同じフルバックアップを実行するなど、柔軟に設定できます。



Agent for Oracle

RMAN方式かファイルレベル方式(OSコマンド方式)を選択でき、お好きな方法で稼働中のOracleデータベースをバックアップできます(Linux/UNIX版はRMAN方式のみ)。

Agent for Microsoft SQL

SQLデータベースのオンラインバックアップ時に整合性チェックができ、確実なバックアップデータを作成できます。

Agent for Microsoft Exchange

稼働中のバックアップをサポートし、ビジネスで大事なメールなどを個別に復旧できます。

Agent for Microsoft SharePoint

Microsoft SharePoint Serverによって構築された企業ポータルや検索インデックス、シングルサインオンデータベースなど、SharePointで利用されるデータベースを保護することができます。

Agent for Lotus Domino (HCL Domino)

稼働中のLotus Domino (HCL Domino)をバックアップでき、バックアップ時点のほか、Point-In-Time回復で特定の日時に復旧できます。

価格 本価格表以外にアカデミックライセンスのご用意があります。

製品名	パッケージ製品 ^{*1}	ライセンスプログラム製品 ^{*2}			
		ライセンス+1年メンテナンス		ライセンス+3年メンテナンス	
		価格(税抜)	総額(税込価格)	価格(税抜)	総額(税込価格)
ベース製品	Arcserve Backup for Windows	¥218,000	¥239,800	¥250,000	¥275,000
オプション製品	Enterprise Module	¥341,000	¥375,100	¥393,000	¥432,300
	Tape Library Option	¥202,000	¥222,200	¥233,000	¥256,300
	Disaster Recovery Option	¥128,000	¥140,800	¥148,000	¥162,800
	SAN Option	¥286,000	¥314,600	¥330,000	¥363,000
	SAN Secondary Server Bundle	¥286,000	¥314,600	¥330,000	¥363,000
	NDMP NAS Option	¥288,000	¥316,800	¥332,000	¥365,200
	Central Management Option	¥341,000	¥375,100	¥393,000	¥432,300
	Global Dashboard (per Managed site)	¥45,000	¥49,500	¥50,000	¥55,000
エージェント製品	Guest Based Virtual Machines Agent Bundle	¥80,000	¥88,000	¥92,000	¥101,200
	VM Agent per Host License ^{*3}	¥286,000	¥314,600	¥330,000	¥363,000
	Agent for Open Files	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Client Agent for Windows	¥80,000	¥88,000	¥92,000	¥101,200
	Client Agent for Linux	¥80,000	¥88,000	¥92,000	¥101,200
	Agent for Oracle	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Agent for Microsoft SQL	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Agent for Microsoft Exchange	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Agent for Microsoft SharePoint	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Lotus Domino (HCL Domino)	¥142,000	¥156,200	¥165,000	¥181,500
	Linux Agent for Oracle	¥202,000	¥222,200	¥233,000	¥256,300

メディアキット、チョイスサポートプログラム

メディアキット ^{*4}	価格(税抜)	総額(税込価格)
License Program Arcserve Media Kit	¥15,000	¥16,500
チョイスサポートプログラム(CSP)	1年間契約	2年間契約
2インシデント テクニカルサポートパック	¥59,000	¥64,900
5インシデント テクニカルサポートパック	¥130,000	¥143,000
Arcserve バリューサポート	¥721,000	¥793,100
Arcserve プリファードサイトサポート	¥4,329,000	¥4,761,900
	¥7,774,000	¥8,551,400

*1 テクニカルサポートへお問い合わせいただくには、インシデントパックをご購入ください。テクニカルサポート（チョイスサポートプログラム）の詳細はサポートページでご確認ください。 *2 新規購入の際、ライセンスおよびメンテナンスの購入が必要です。掲載の価格は、ライセンスと1/3年メンテナンスの合計です。なお、ライセンスプログラム製品のメンテナンスにはメンテナンス期間中の製品アップグレードと、テクニカルサポート（平日9:00-17:30）が含まれています。 *3 仮想ホスト単位のライセンスで、仮想ホスト上の仮想マシンの数に制限はありません。 *4 ライセンスプログラムで購入した製品をインストールするためのメディアです。ライセンスプログラムを初めてご購入いただく際はメディアキットをご購入いただきか、モジュールをWebからダウンロードしてご利用ください。

主なバックアップ対象

OS	アプリケーション	
Windows Server 2022 / 2019 / 2016 / 2012 R2 / 2012 Windows Storage Server 2016 / 2012 R2 / 2012 Linux (Red Hat, SUSE, CentOS, AlmaLinux, Rocky Linux 他)	Microsoft Exchange Microsoft SQL Server Microsoft SharePoint Oracle Database Lotus Domino (HCL Domino)	VMware Microsoft Hyper-V Amazon EC2 Microsoft Azure 他

Arcserve
ジャパン ダイレクト



製品情報



サポート情報



30日間
無償トライアル



Arcserveセミナー



arcserve[®]

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2025 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

お問い合わせ窓口：Arcserveジャパンダイレクト (0120-410-116)

JapanDirect@arcserve.com

WEBサイト：<https://www.arcserve.com/jp>

※記載事項は変更になる場合がございます。 2025年6月現在

Arcserve Japan
WEBサイト

